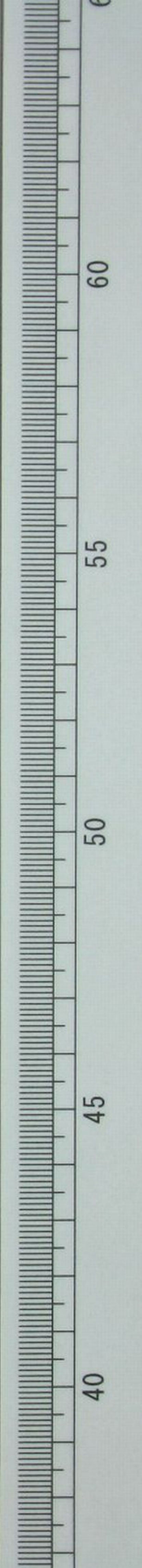


小倉文庫
イ 16
19



門
110
10
卷

101

湘
二十
年
受
人

門 116
號 19
卷

寬永四年玄光序

塵

劫記

(五卷本)

卷一
卷二

昭和二十七年
六月二十一日
受入

牙三
牙四
牙五
牙六
牙七
牙八
牙九
牙十
牙十一
牙十二
牙十三
牙十四
牙十五
牙十六
牙十七
牙十八
牙十九
牙二十

巻之三

小石ころあがりの事

利足が事

きぬうりうひの事

三人お合のうい物まけそとる事

かひのうんちんの事

立木のちりさをまがしてほむる事

町つりの事

へんの事

けんちんの事



卯七

知り物ぬれ事

巻ノ第四

卯八

中ノ寸の法付むり一ますの法

卯九

糸ノ寸の法付むり一積れ事

卯一〇

ひやうふよをすはりのり事

卯一一

川ふと人付りりやむんれ事

巻ノ第五

卯一二

まゝ子立の圖

卯一三

ひやうふよをすはりのり事

卯一四

ひよく一とふのり事

卯一五

く寸さんれ事

卯一六

金千粒銀千粒を四方一はりのり事

卯一七

きぬ一たんれところぐさの事

卯一八

日本國中男女のつりりれ事

卯一九

六里と四人をむまに正よのり事

卯二〇

あかすりりりけてる事

卯二一

きぬの寸のととちの事

卯二二

百五けんれ事

卯二三

杖束うらりの事

卯二四

ひよふまきり付竹の事

塵劫記序

山城列葛野郡嵯峨村人夏吉曰光由

頃者介或人扣予柴扉肩毛厮結於是

予自袖裏携五卷書來被需書名與序

跋予披之觀之實筆法靈樞也予問云

是誰所作也光由答云我自少時癖集

法而諸家筆法繁者變之畧其辭之集

而大成是我目述也此外雖一可製筆



數卷有之卷而懷之可謂勤矣予於
者不識六與七為什麼塞其責橫點頭
者每三雖然不曾饒終弗獲默止付與
毛先生毛先生突出曰夫算者自天地
定位萬物流形以來其數及萬有一千
五百二十零數其外更有刻限數人息
數不暇縷數加之伏羲始畫八卦周公
叙述九章陽數為奇陰數為隅老陽二十

五老陰二十五胸谷五十數為大衍數
既又起律呂七均法宮數者法八十一
商數者法七十二角數者法六十四徵
數者法五十四羽數者法四十八變宮
數者法四十二變徵數者法五十六舉
算極數言之則有二十百千萬億兆京
垓秭壤溝澗正載極萬七極曰恒河沙
萬七恒河沙曰阿僧祇萬七阿僧祇曰

邦由他萬七那由多曰不可思議萬七
 不可思議曰無量大數也舉小數言之
 則有埃塵纖微忽絲毫釐分文兩斤舉
 糧數言之則有粟圭撮分合外斗斛舉
 曰數言之則有忽絲毫釐分步畝及町
 然矧算法者盤觚於黃帝時隸首作算
 數而寢備六藝之一故名算藝者無不
 庸以故光由作為此書自此觀其書知

其人名垂無窮舉一明三為後人龜鑑
 是以掌內識乾坤者必矣且為題其首
 目之曰塵劫記蓋本塵劫來事絲毫不
 隔之句莫謗予好維時寬永四年丁卯
 秋八月日龜毛舜岳質衲玄光為之序

此紙別來未見銀字
 今見此紙好

身二

一よりうられこくす乃名のり

鐵	電	兩
沙	絲	文
塵	忽	分
埃	微	厘

無量無數と云	不可思議と云	那由他と云	阿僧祇と云	恒河沙と云
万万不可思議と云	万万那由他と云	万万阿僧祇と云	万万恒河沙と云	万万極と云

一石より由れと寸る

撮 粒七米下	合 粒七米下	石 粒七米下
圭 粒七米下	分 粒百七米下	斗 粒七米下
粟 粒七米下	抄 粒十七米下	升 粒万七米下 中米六万 五千粒入

四

田のうす乃名の

一忽 長六分五寸 廣六分五寸	一毫 長六分五寸 廣六分五寸	一分 長六分五寸 廣六分五寸	一畝 三十歩とソク	一町 但六十町四方あり 一町とソク六尺五寸
一微 長六分五寸 廣六分五寸	一絲 長六分五寸 廣六分五寸	一厘 長六分五寸 廣六分五寸	一歩 一坪とソク 六尺五寸四方とソク	一反 むろい三百坪とソク いさろ三百坪とソク

一疋 <small>二端</small>	一行 <small>二百 又六十目</small>	陸 交 <small>六 不白</small>	壹 丁 <small>一 不白</small>
一粒	一天 <small>十又 よと</small>	柒 皂 <small>七 不白</small>	貳 示 <small>二 不小</small>
一盃	一尺 <small>十寸 よと</small>	捌 分 <small>八 不白</small>	参 王 <small>三 不直</small>
一驮 <small>馬</small>	一和 <small>十木</small>	玖 丸 <small>九 不点</small>	肆 罪 <small>四 不非</small>
一艘 舟	一乘 一把	拾 針 <small>十 不金</small>	伍 吾 <small>五 不口</small>

才五

汝物きやう志申う 宝

○きこ子
子四方のをしよ
百七拾五なり

○志ろり子
子四方のをしよ
百四拾目なり

○ふまらわ
九拾五なり
一寸四方のをしよ

○あらか子
一寸四方のをしよ
七十五なり

九九の事

二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
の四	の四	の四	の四	の四	の四	の四	の四	の四	の四
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
の六	の六	の六	の六	の六	の六	の六	の六	の六	の六
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
の八	の八	の八	の八	の八	の八	の八	の八	の八	の八
二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
の十	の十	の十	の十	の十	の十	の十	の十	の十	の十

○ 黒い子

一寸四方乃至
方拾目あり

○ さんちろう

一寸四方乃至
六十九乃至

○ じい

一寸四方乃至
六十三乃至

○ たま

一寸四方乃至
百或拾目あり

○ まる石

一寸四方乃至
世目あり



八さんわかれ此圖がくみかてん



一ツを二と二ツを三とある時ふ
天作五とついで
一ツを五と倍りしるり
の二十といふた



二ツを十といひしるへ上て五と
三ツを二ツより多るも先二進此一十といふて



あつ一ツを二一天作の五とわかれ一五と成て
二より多るも或終り多るも二百よりあふも



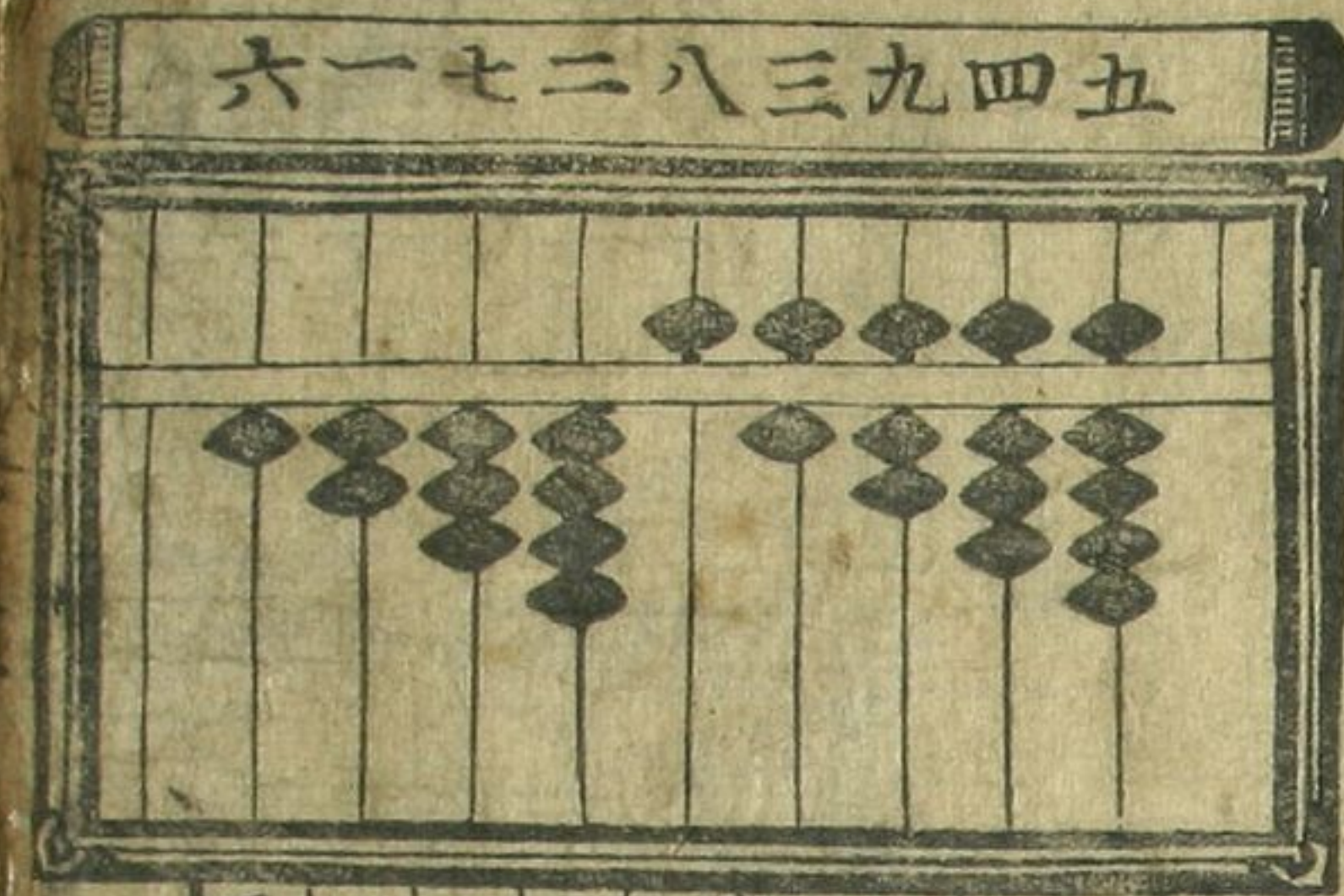
二千も二かりわかれこれにて百よりあふり
三ただんも四乃ぶん五六七八九これぶんにてても

さかどしと 但圖よりくみかてんあり

二刻圖

二天作五	逢二進二十
------	-------

孫算



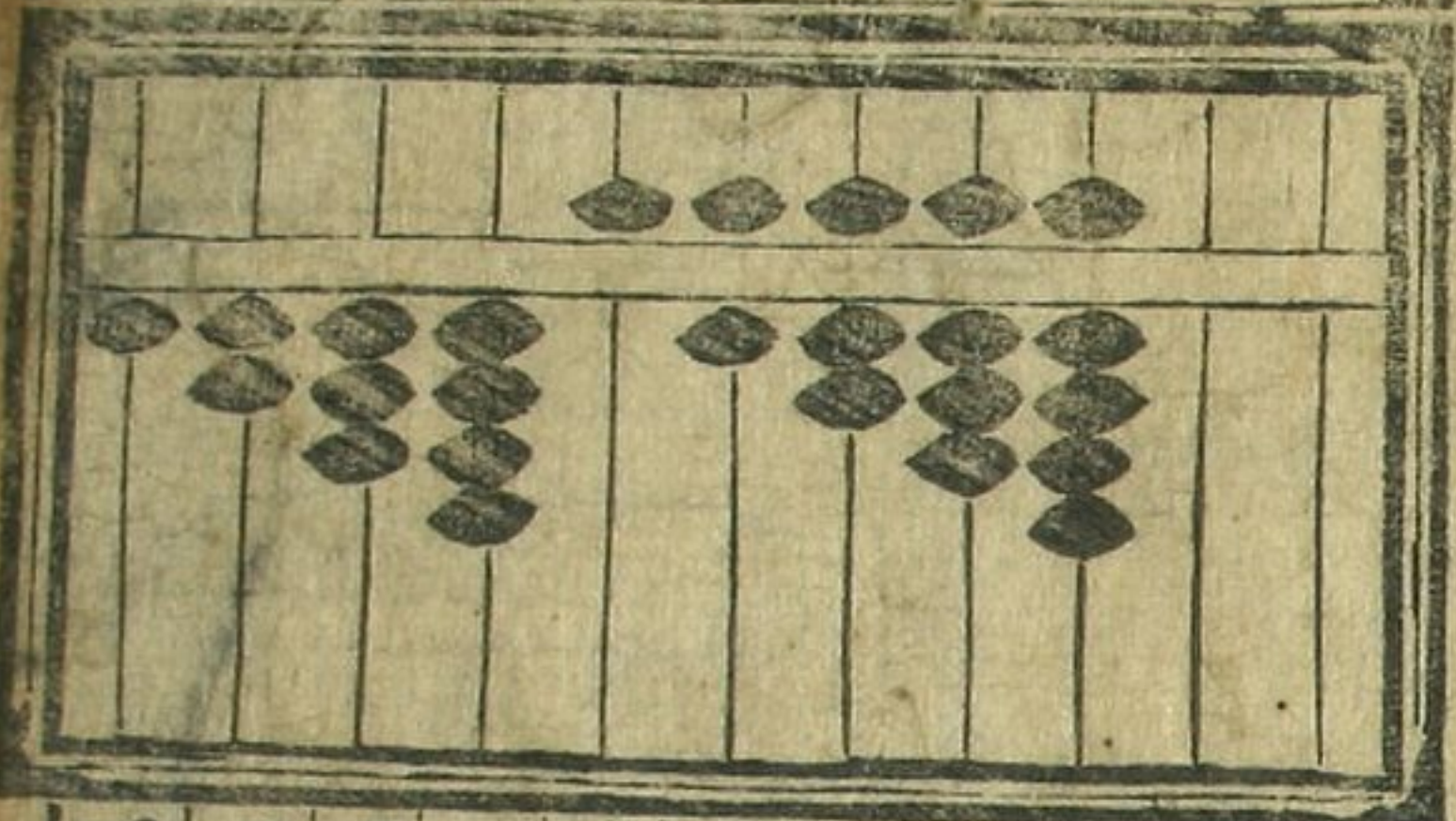
八進四十	〇二一天作八
八進四十	
六進三十	〇二一天作五
六進三十	
四進二十	〇二一天作五
二進二十	〇二進二十
二進二十	〇二一天作五
二進二十	
二一天作五	

一五	二四	三三	四二	五一	六〇	六九	七八	八七	九六	〇五
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

珠算

算珠

三 八六四一九七二五



四刻圖

四三

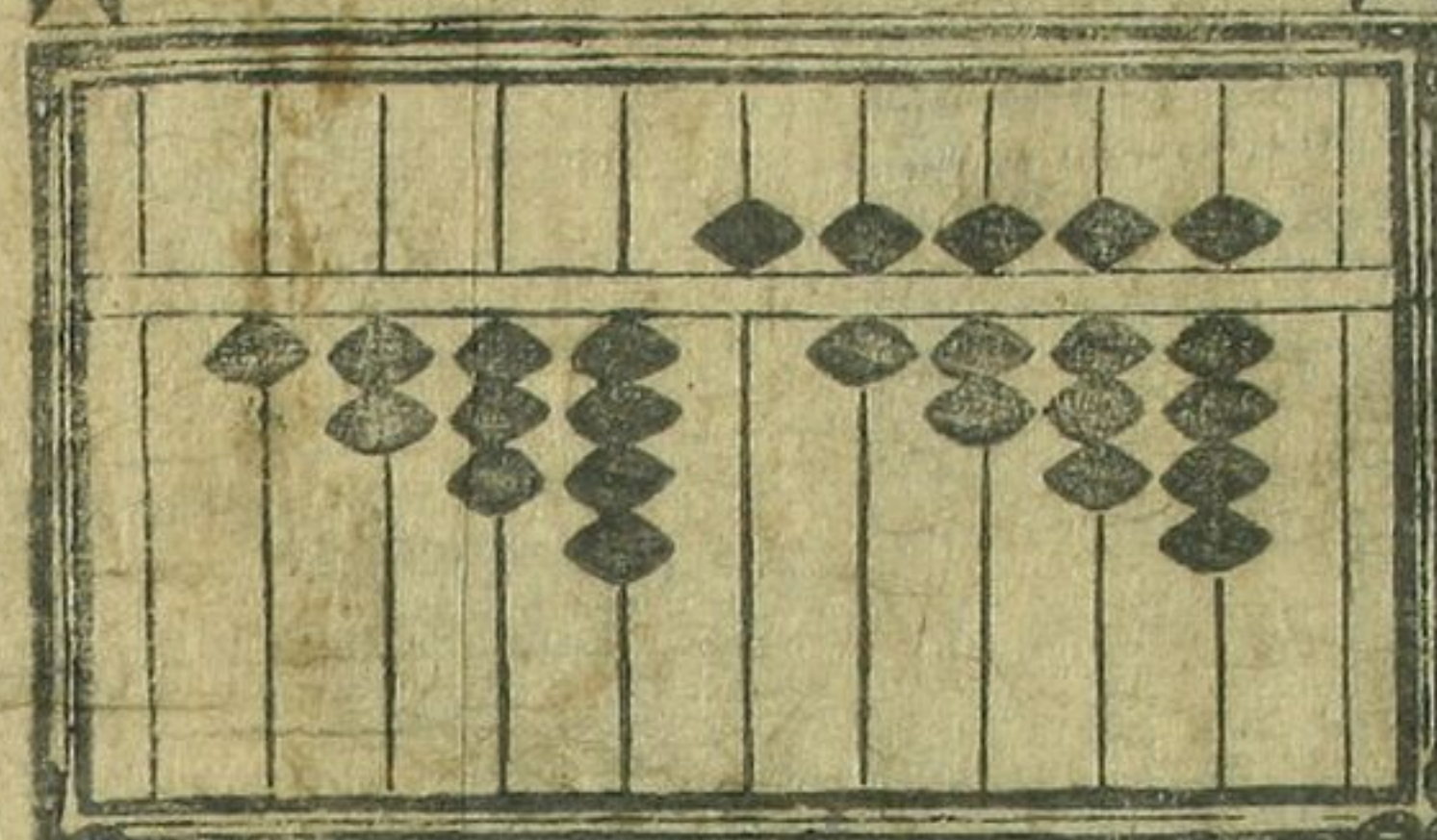
廿二
天作五
七十二

逢
四進二十

四二 天作五
八進二十 ○四一 廿二
八進二十 ○四二 天作五
四進二十 ○四三 七十二
八進二十
四進二十 ○四一 廿二
四二 天作五
四三 七十二
四進二十

四一 廿二

四一一五二二六三



三刻圖

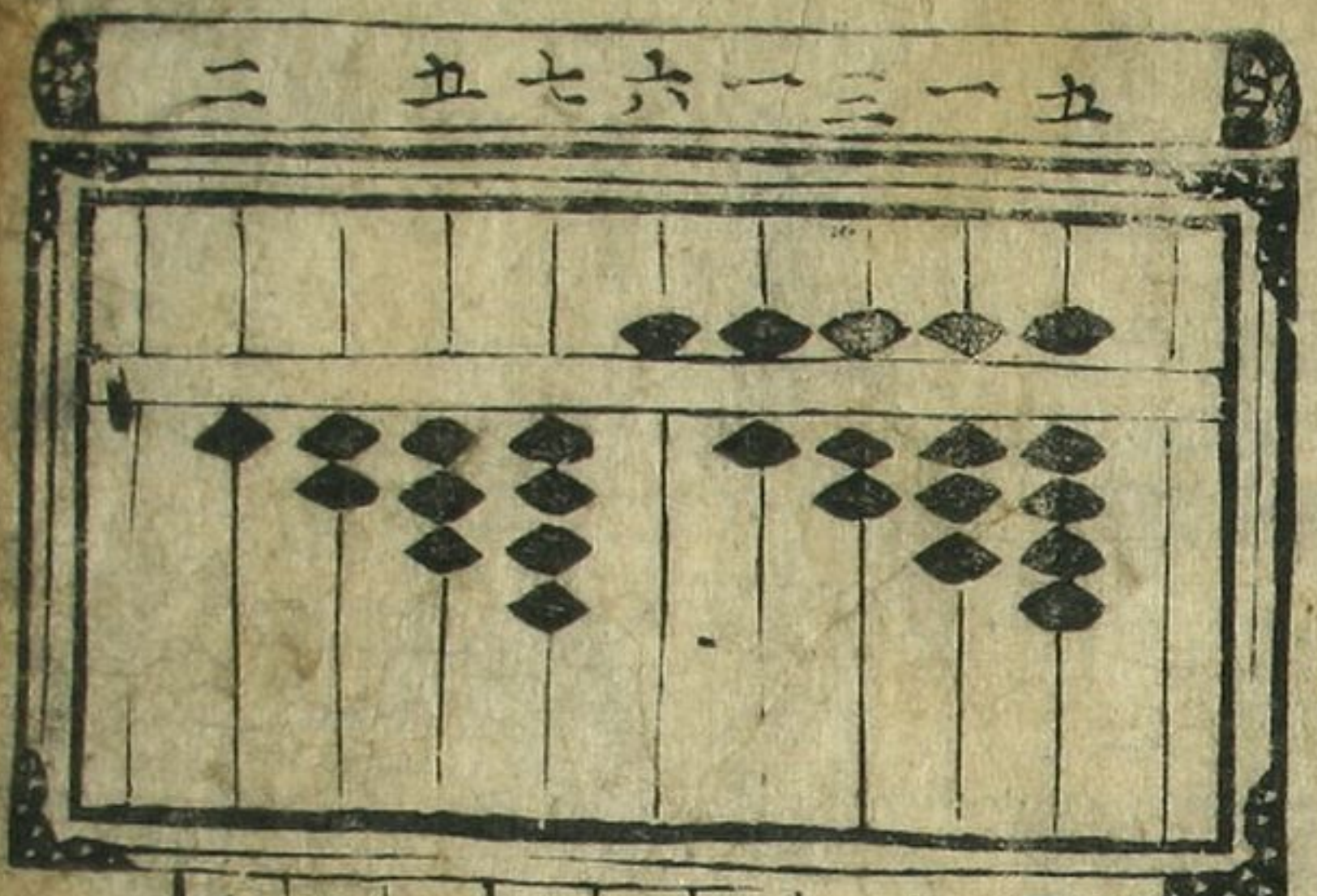
逢三

廿一
六十二
三進二十

九進三十
九進三十
六進二十 ○三一 廿一
六進二十
六進二十
三進二十
三進二十
三進二十
三一 廿一

子五九

算盤圖



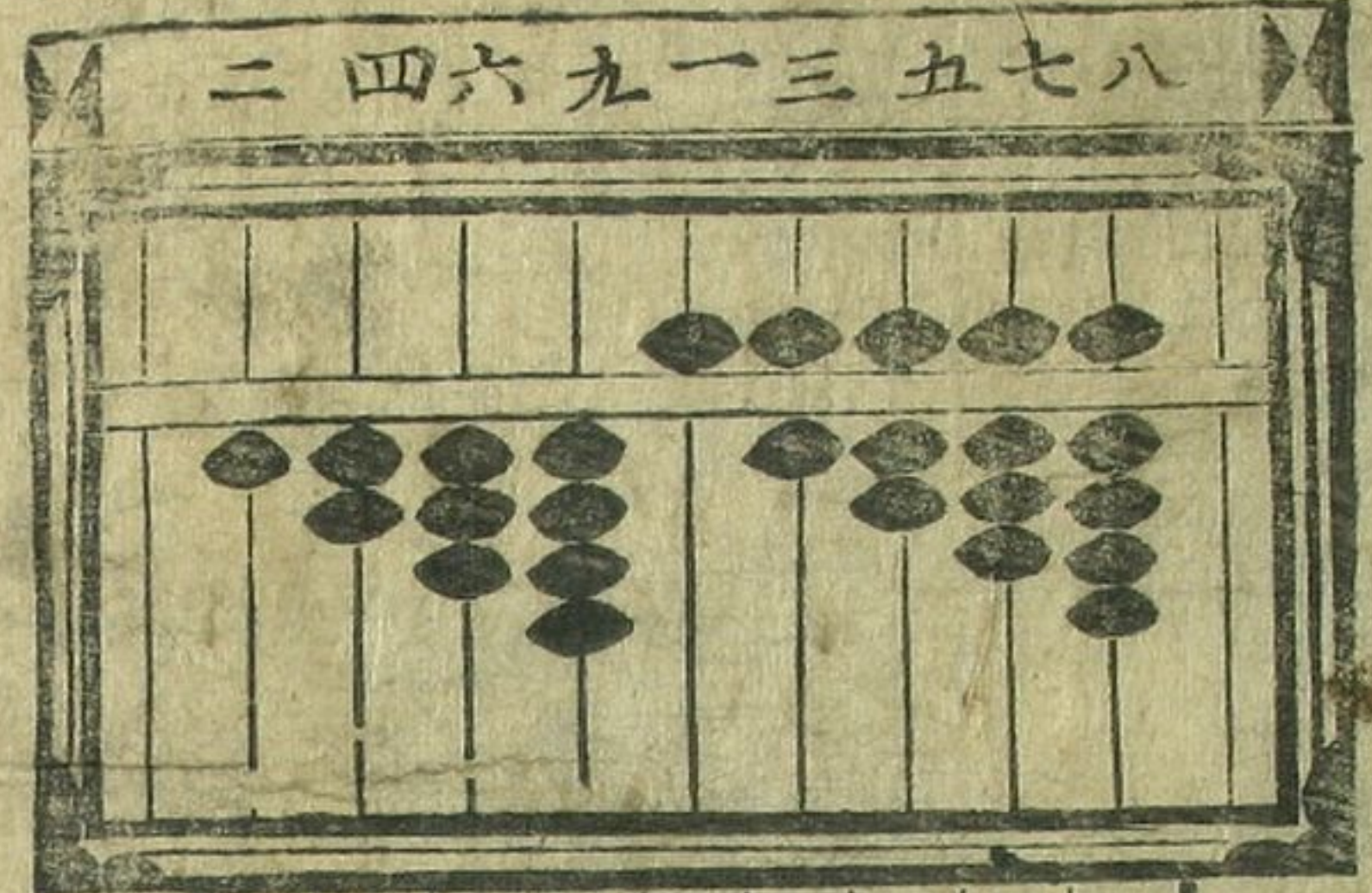
六刻圖

六	六	六
天作六	廿二	加下四
通	六	五
六進千	八十二	六十四

六進一十 ○六三 天作五
 六進一十 ○六進一十
 六進一十 ○六一 加下四
 六進一十 ○六三天作五
 六四 六十四
 六五 天作六
 六進一十
 六一 六十四

五六
 六六
 六六
 六六
 六六

算盤圖



五刻圖

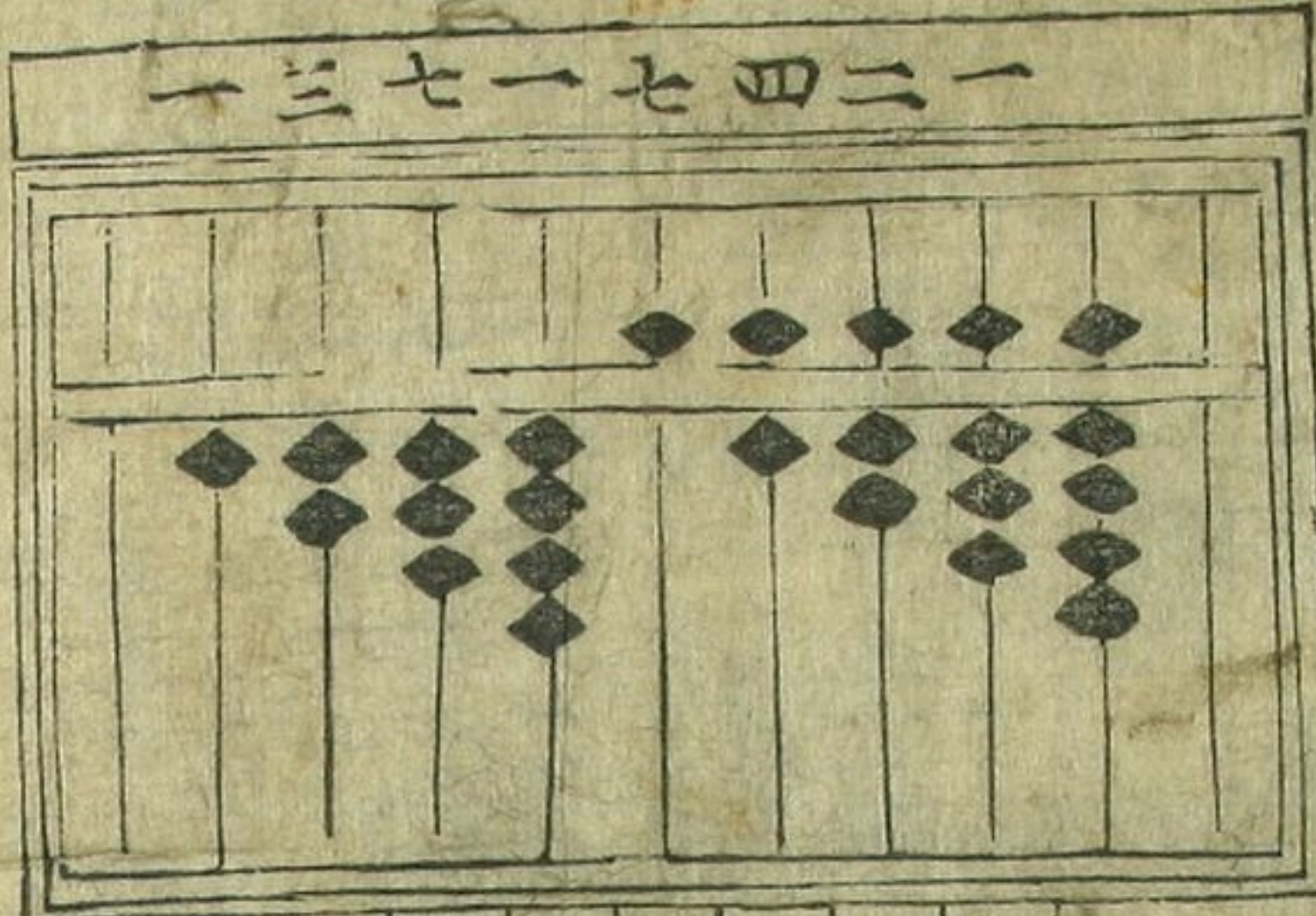
五	五	五
倍双六	倍双四	倍双二
	五	五
	五進千	倍双八

五進一十 ○五四 倍双八
 五進一十 ○五三 倍双六
 五進一十 ○五二 倍双四
 五進一十 ○五一 倍双二
 五進一十
 五四倍双八
 五三倍双六
 五二倍双四
 五一倍双二

五五
 五五
 五五
 五五
 五五

卷之二

九刻圖



九三 九二 九一

加下三 加下二 加下一

九六 九五 九四

加下六 加下五 加下四

九七 九八 九九

加下七 加下八 加下九

九進千 九進千 九進千 九進千 九進千 九進千 九進千

〇九二 〇九三 〇九一 〇九二 〇九三 〇九一 〇九二

一九九 二九八 四九六 七九三 一九九 二九八 四九六 七九三

九九九九

九九九九

算術

先八

見一わり此圖付くけらん

見一を以て作九一 〇倍一倍一 〇一進一十

これん十一より十九の上のうまわり時入

又百のうまのうま子のの上まよりまも回あ

見二を以て作九二 〇倍一倍二 〇八さん二のたん

是れ廿一より廿九の字を刻時入也 又或百の

上の二千の上の二万れ上ま刻も回し

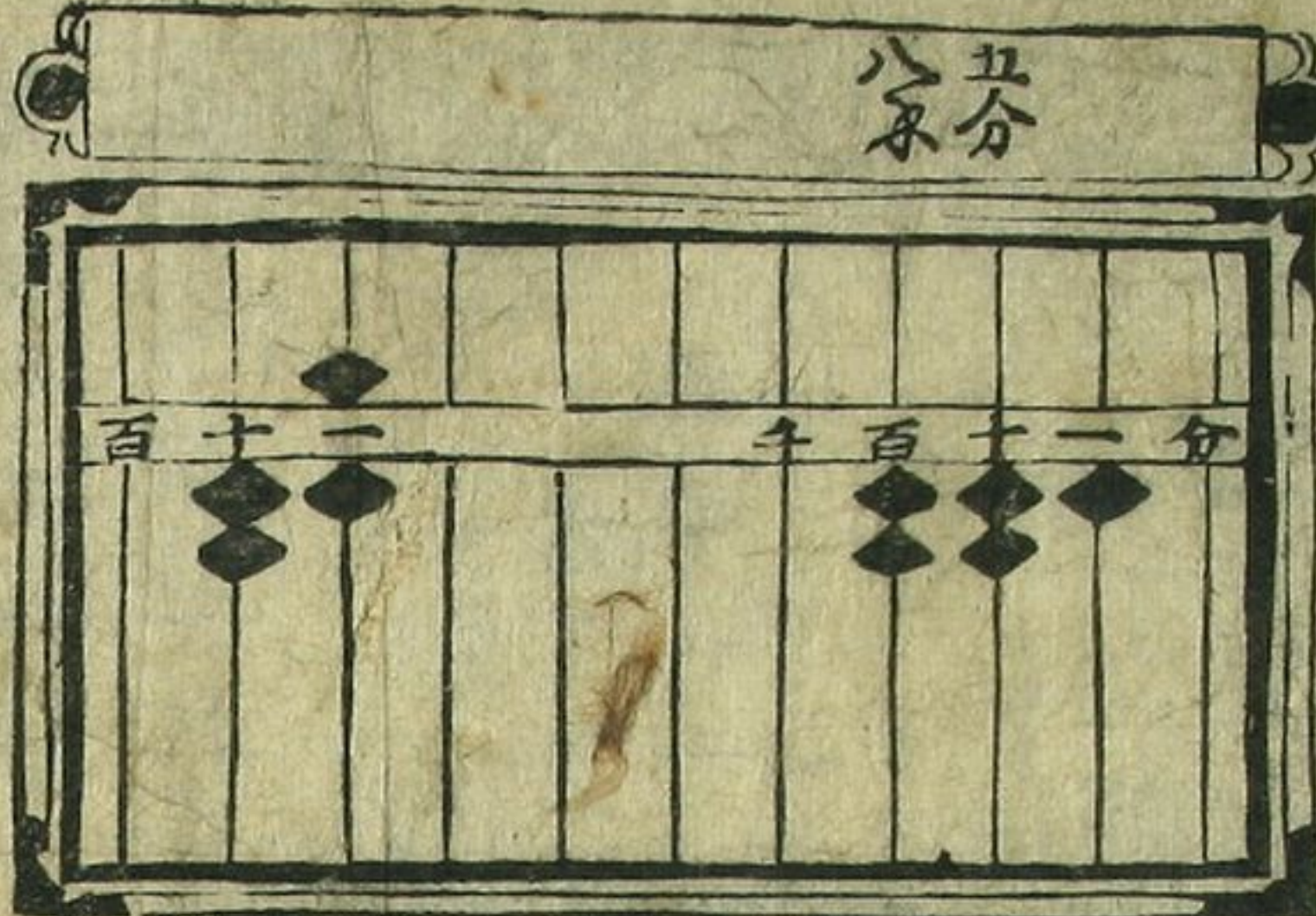
見三を以て作九三 〇倍一倍三 〇八さん三のたん

廿一より廿九よりわあも又三音のうまのうま

まも三平の上まもまもまもまもまもまもまも

七 加下

二見



あるひに二百廿五と
廿五よりいれり
いれり
倍一倍二
八んれの内入

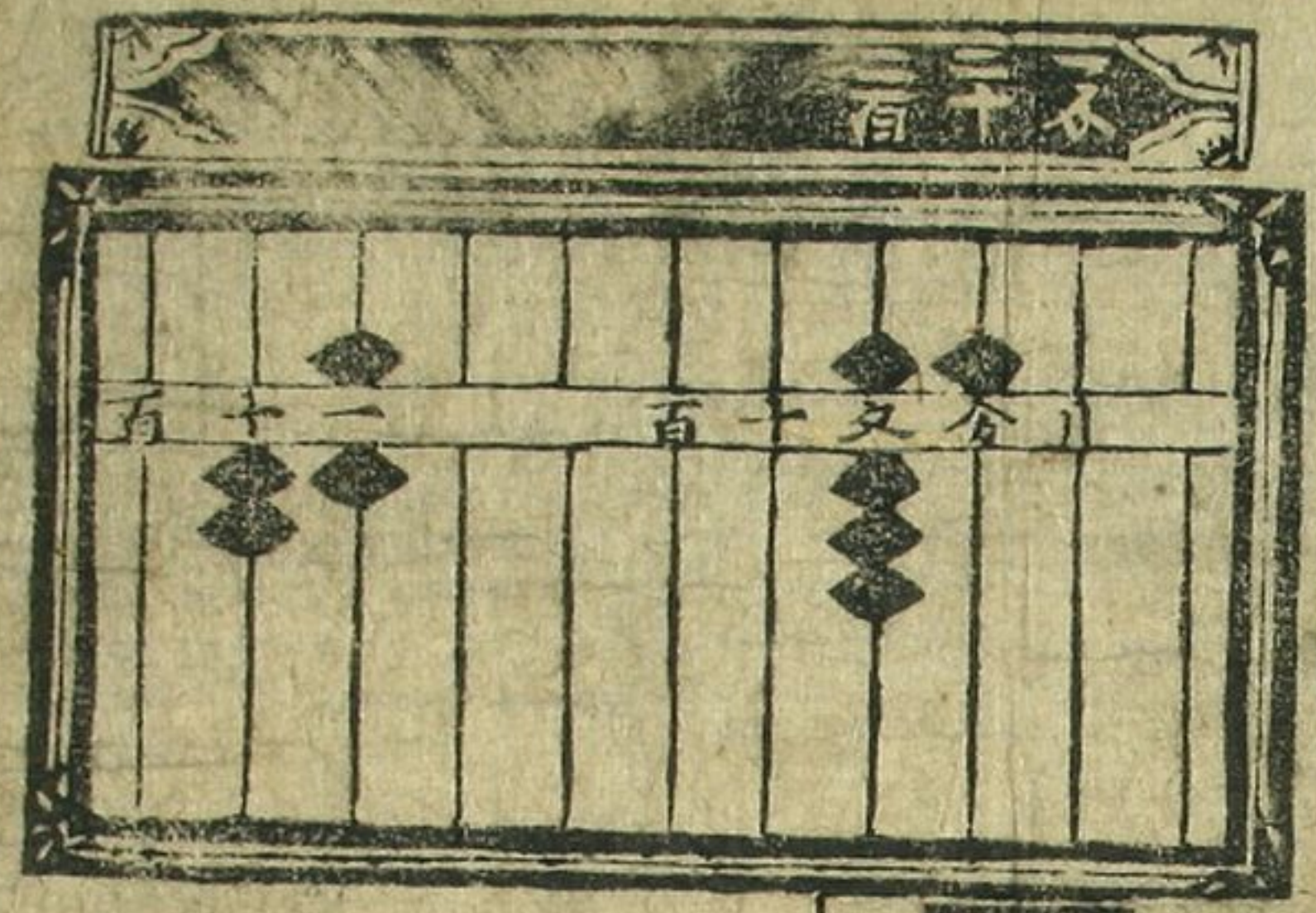
多れの内入
見二倍は倍九三
いれの内入
倍一倍二
八んれの内入

これ廿一のあせ九までのまあるた
又あるひに二百四十二にこれとあせも
二千のうへにありあるは又二万七千二
百廿七のまこれとあせ二十六万より
これとあせはこれにこれとあせはこれと
あせはこれとあせはこれとあせはこれと

倍二倍二 六八四十八引 三一天作ふ
見二倍は倍九二

九に廿六とをきて右よ二百廿五と垂てまの二百と見二
せと取作九二ととせ二百目ののこるを九とほりて
二とほりま二ととせ入りの九四ととせは九と
九のほりま二ととせ入りの九四ととせは九と
内を二つととせ入りの九四ととせは九と
八つととせ入りの九四ととせは九と
ひけをあせに十とのこるは八とせの二のほりて
二一天作中ととせ八とせは五のほりて二とせの
ちと右の五ととせ六ととせは七ととせは八ととせは九と

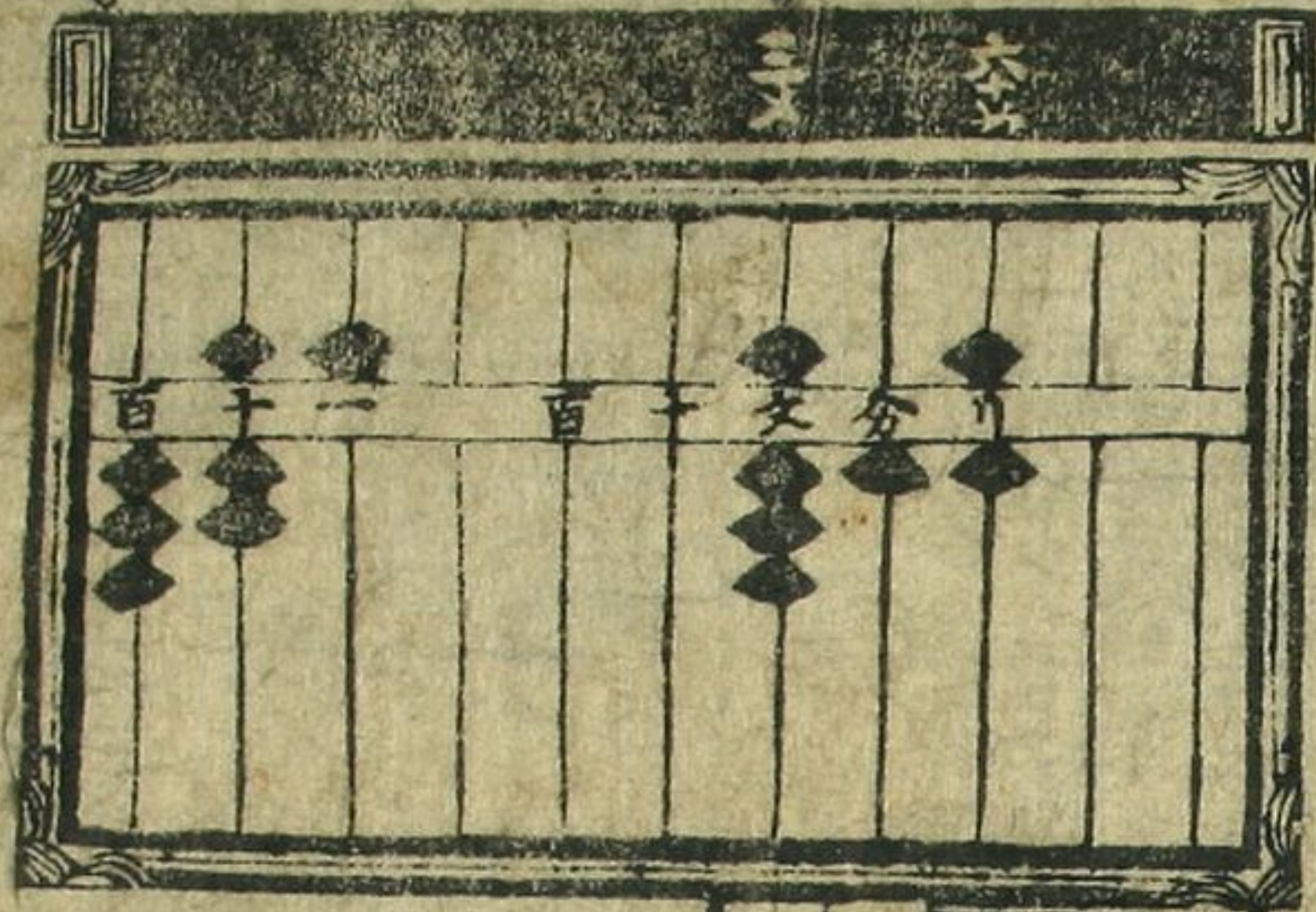
ひげん



廿六
二五
六八
二六

あるひに
二十
二百廿五
二百廿五

算盤の用法

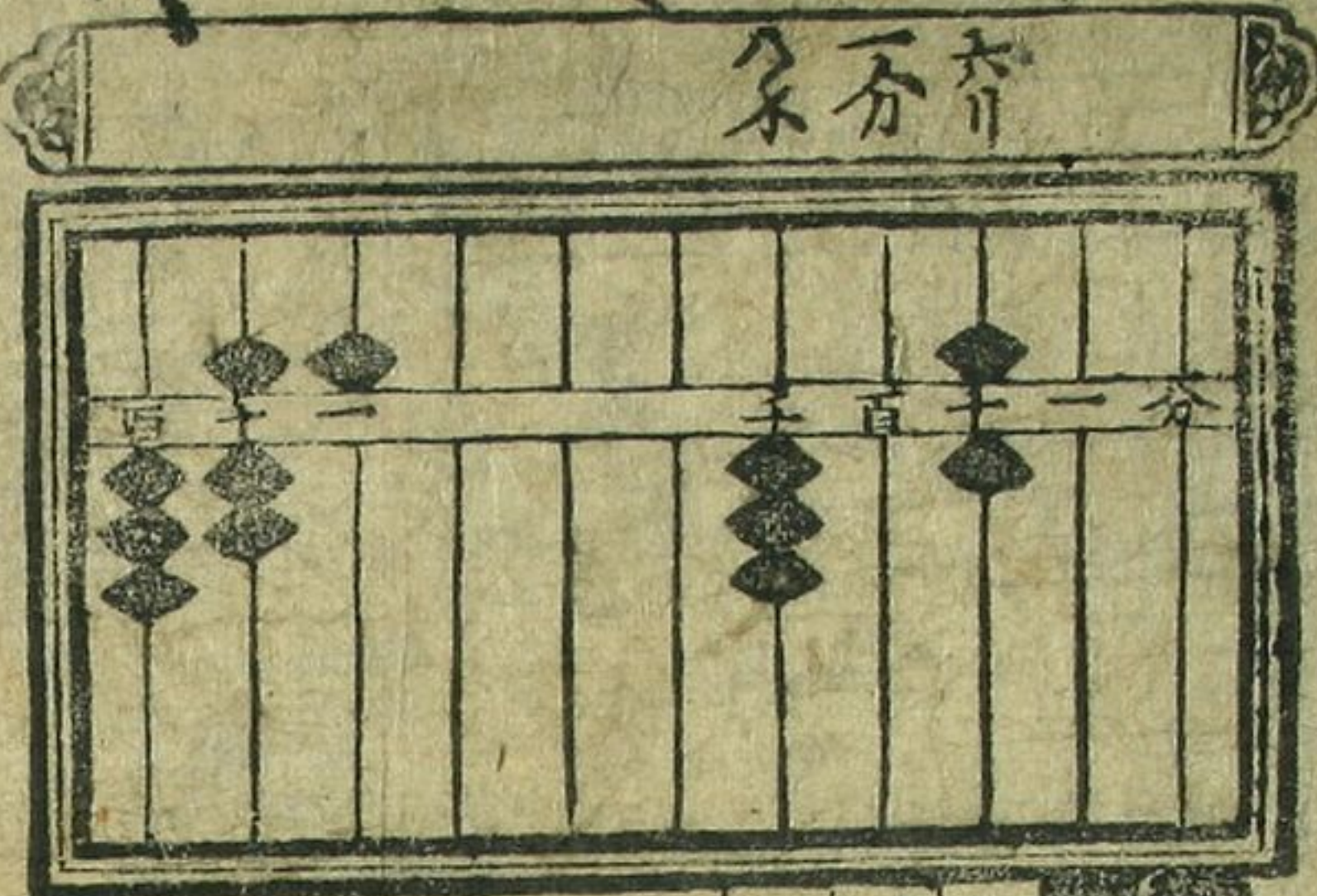


七五七

百	十	一	百	十	一
一	七	五	一	七	五
百	十	一	百	十	一
一	七	五	一	七	五

あつひのハキキハチリ
 三百七拾五あつひのハチリ
 三拾五拾五あつひのハチリ

算盤の用法



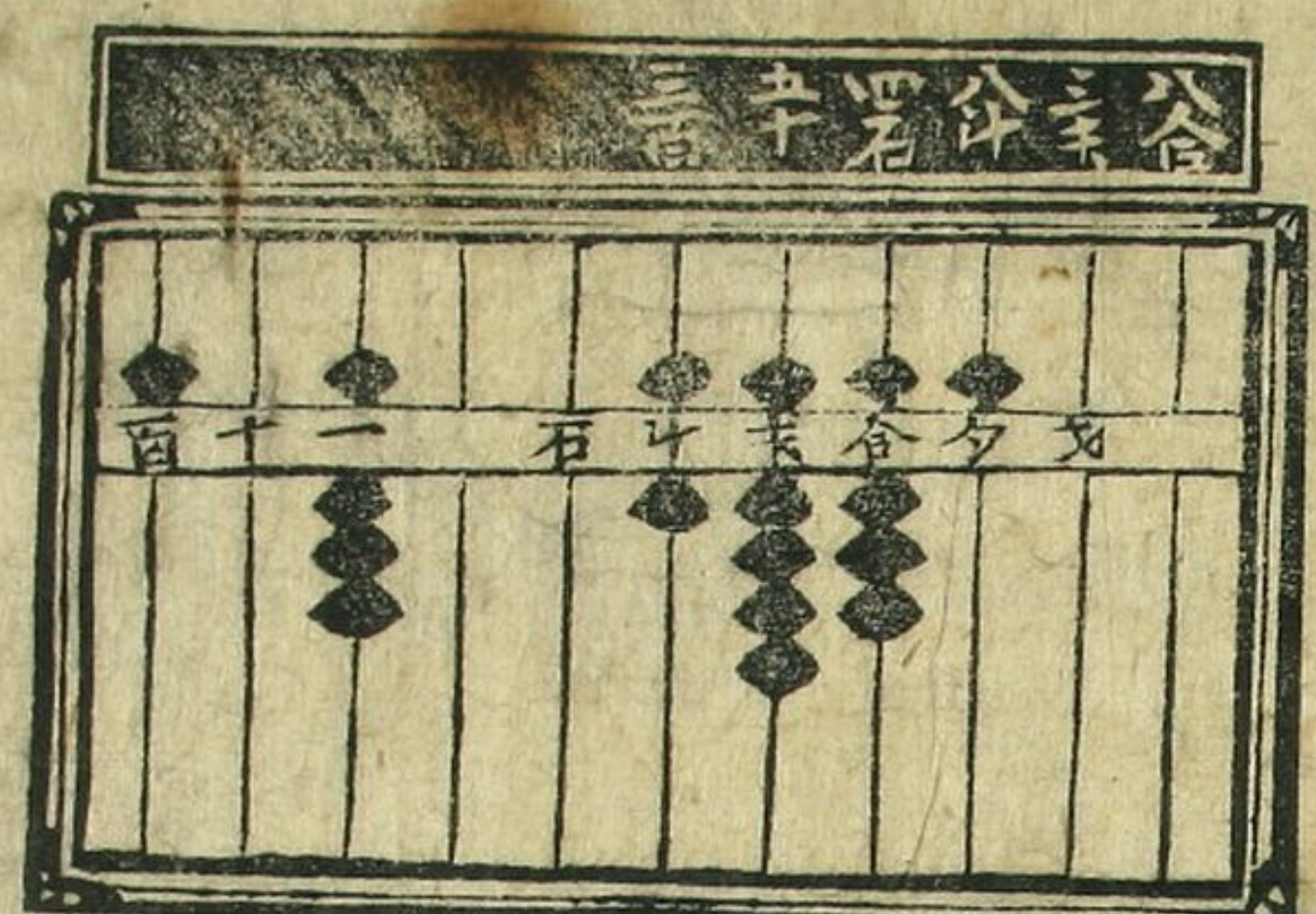
見之圖

百	十	一	百	十	一
一	七	五	一	七	五
百	十	一	百	十	一
一	七	五	一	七	五

あつひのハチリ
 三百七拾五あつひのハチリ
 ハキキハチリ

見之圖
 見之図
 一拾五拾五

算

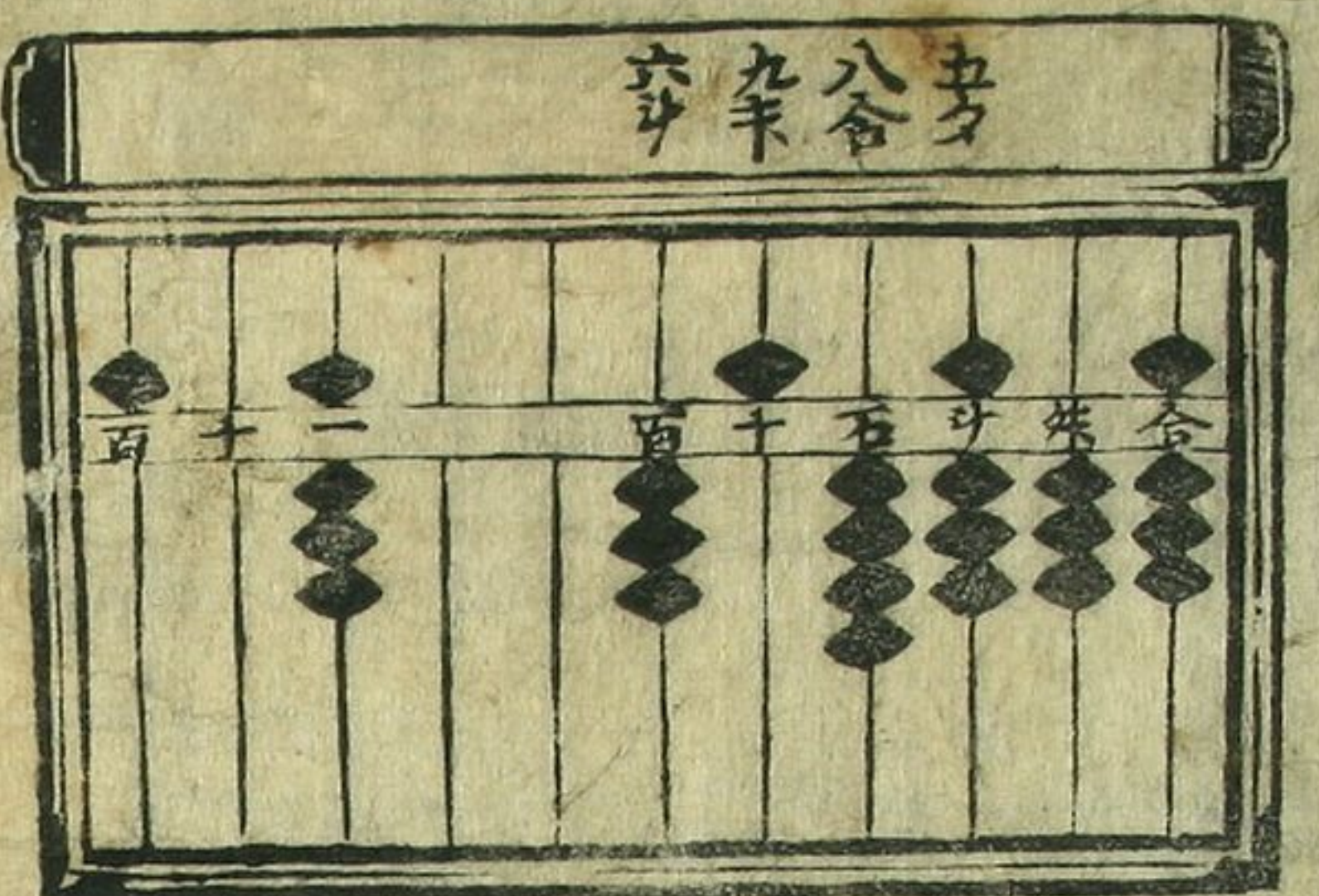


五八

三百五拾四石五斗八升
 ありのいハ五斗九升の合あり
 五百八あり五斗八升

五八	五八	五八	五八
八六	八六	八六	八六
六四	六四	六四	六四
四二	四二	四二	四二

見五之圖

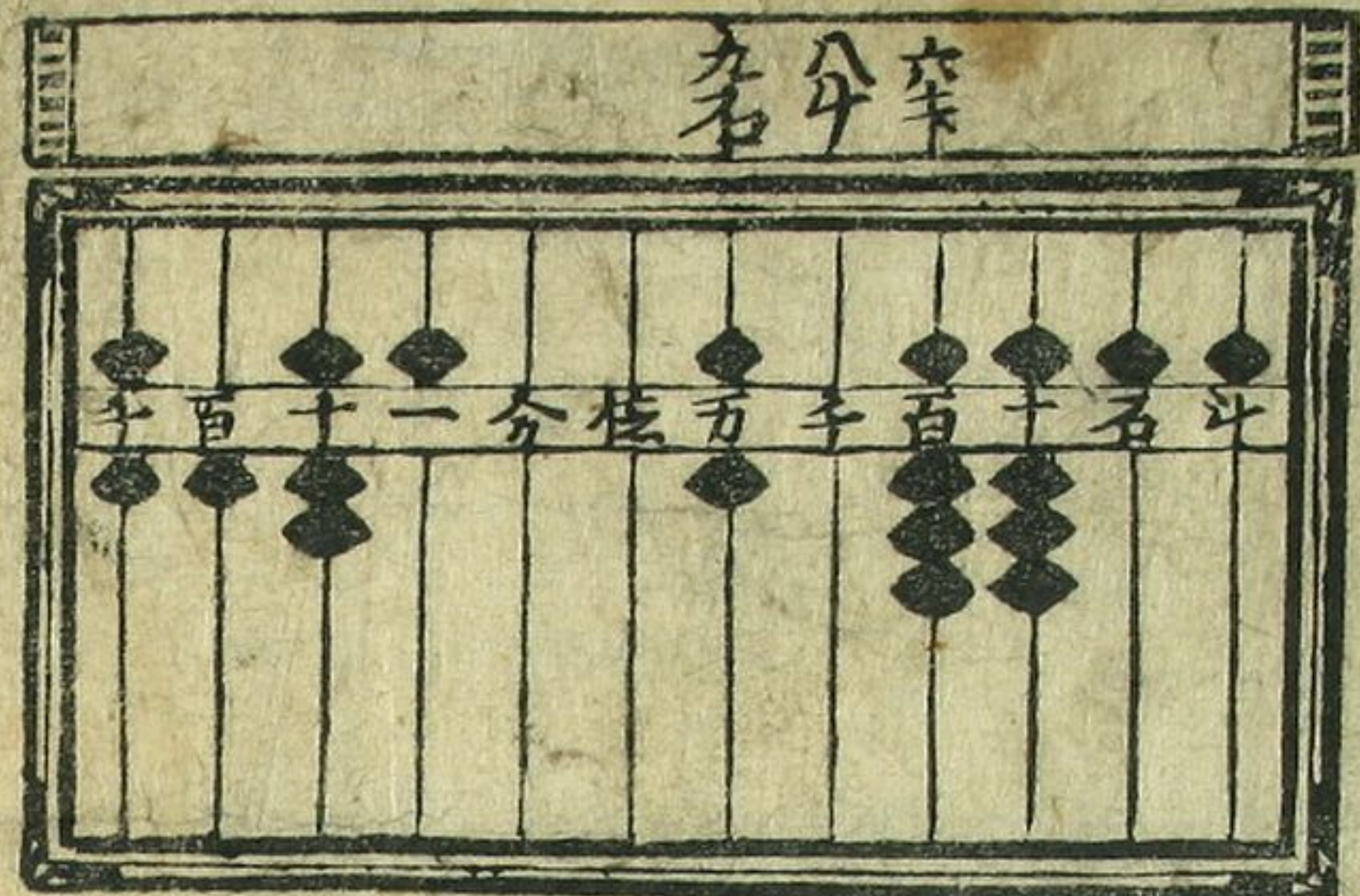


米三百五拾四石五斗八升
 五百八あり五斗八升
 五斗八あり五斗八升

六四十八	八九七十二	八八六十四	六四十四	五進二十	六四十四
五二倍双六	見五斗八升	五四倍双八	五進二十	五二倍双四	

おのり
 見五斗八升
 一倍五
 六

見六之圖



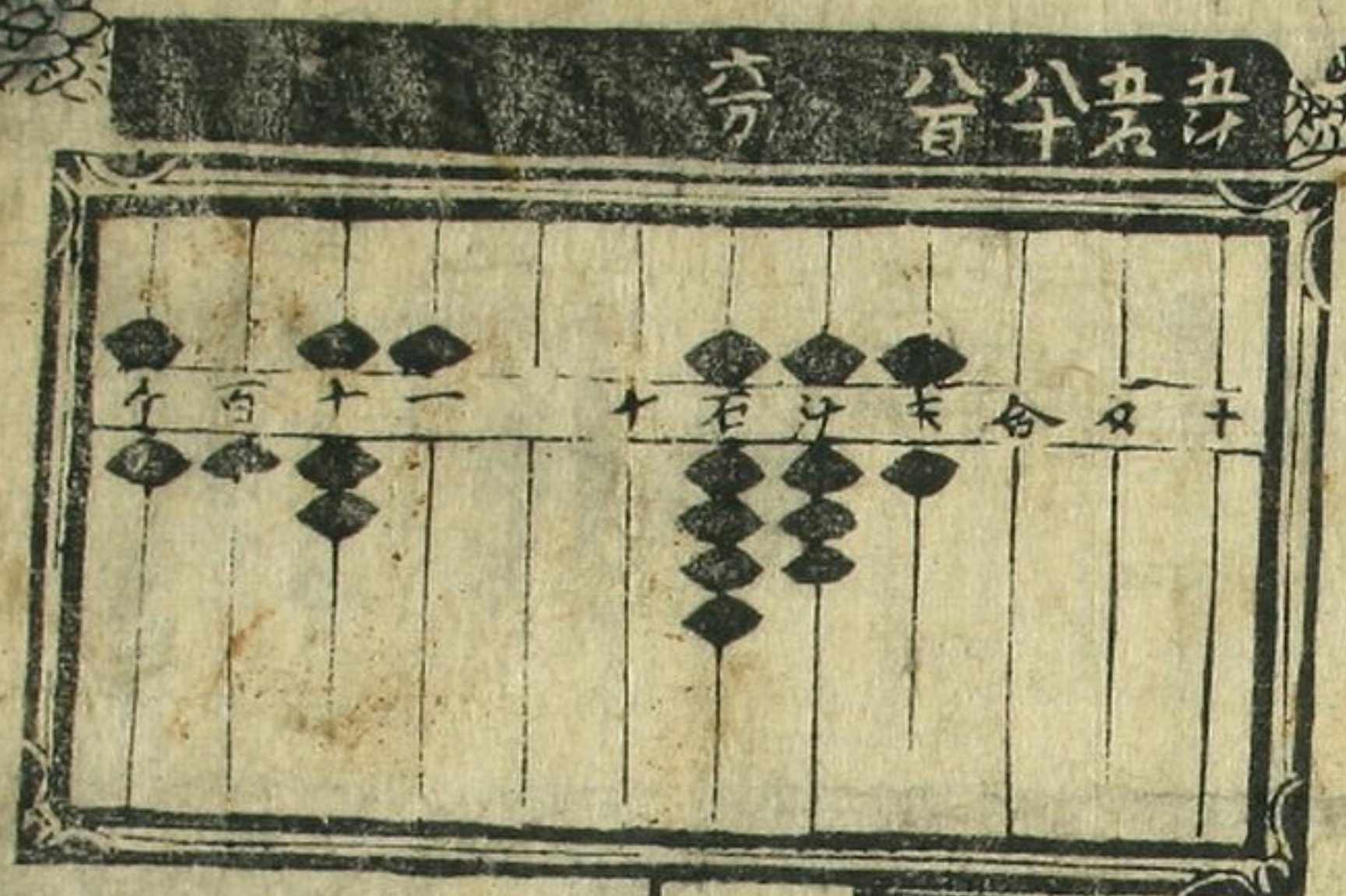
おのりぬ時
いしりぬ時

見六せぬ作九六
一倍六

五九四十五引	七八五十六引	六七四十二引	共 卅引
七九六十二引	一八八引	六七 卅二引	
一九九引	六五八十二	六進二十〇六 六引	
見六せぬ作九六		六三 天作也	

あつひの米 六万八千八百八拾五石五斗七
 六千七百七十五り あつひ
 九石八斗六升下ツるよりなり

のりぬ



共 卅	六七 卅二	六八 卅八	六九 卅四
一六六	七八 卅六	七九 卅五	
六六 卅六	一八八	七九 卅五	
	六八 卅八	一八九	
		六九 卅四	

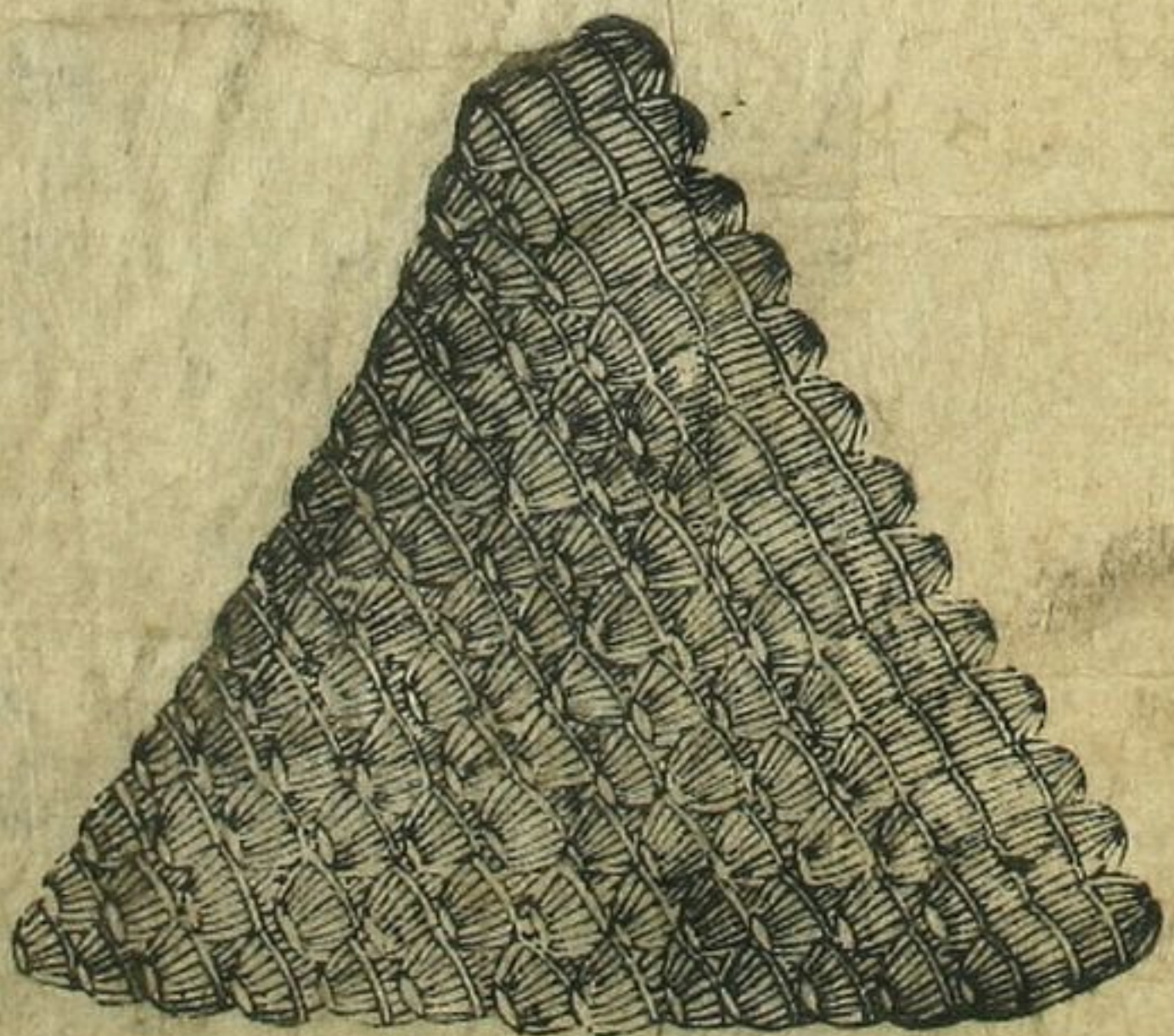
あつひの米 九石八斗六升下ツるよりなり
 六千七百七拾ぬ あつひよりなり
 六万八千八百八拾五石五斗七

一 才九
 二 才九
 三 才九
 四 才九
 五 才九
 六 才九
 七 才九
 八 才九
 九 才九
 十 才九
 十一 才九
 十二 才九
 十三 才九
 十四 才九
 十五 才九
 十六 才九
 十七 才九
 十八 才九
 十九 才九
 二十 才九



才九

○は儀敷九拾五倍



才十

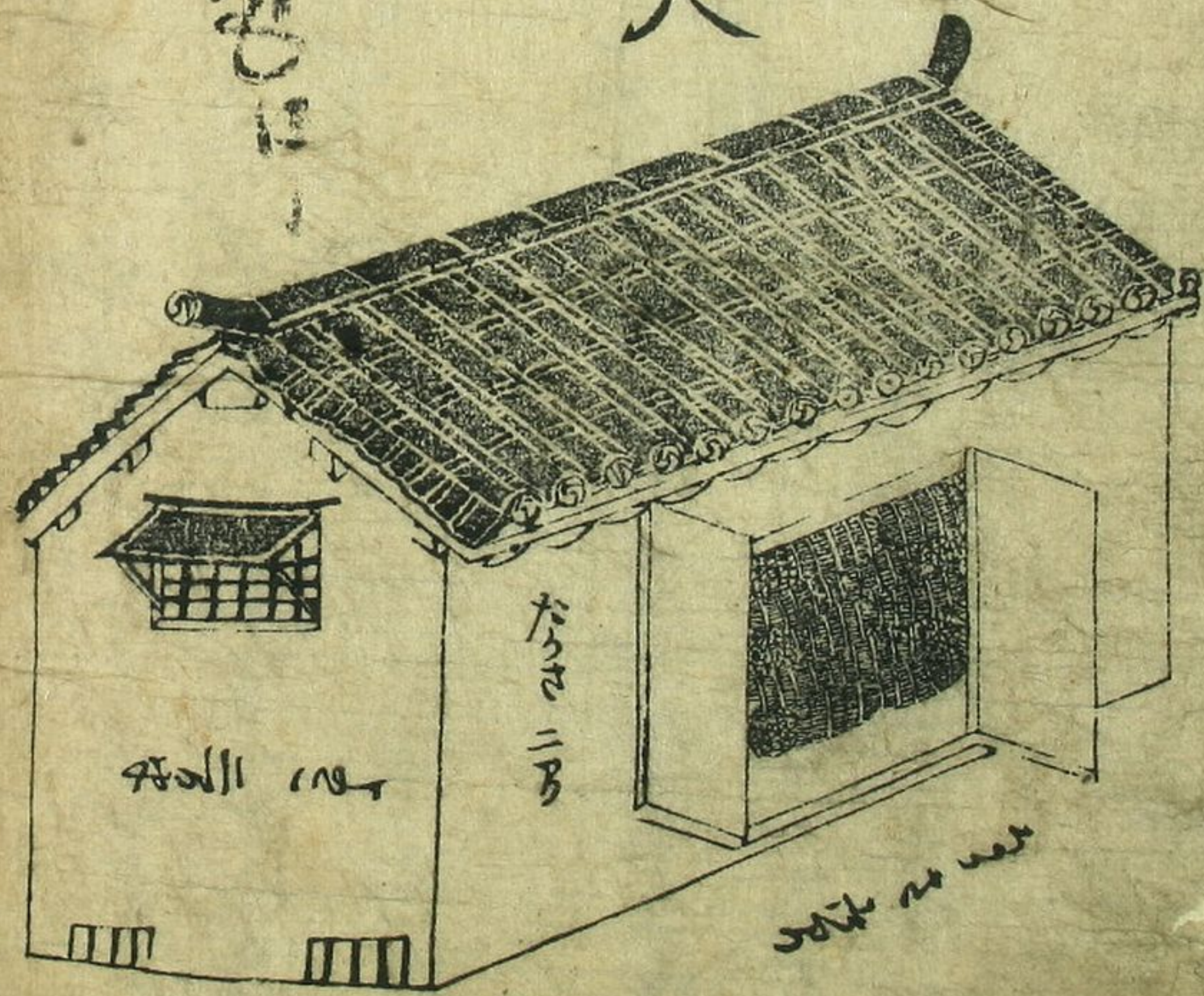
一 才十
 二 才十
 三 才十
 四 才十
 五 才十
 六 才十
 七 才十
 八 才十
 九 才十
 十 才十
 十一 才十
 十二 才十
 十三 才十
 十四 才十
 十五 才十
 十六 才十
 十七 才十
 十八 才十
 十九 才十
 二十 才十

中十二

なましく此入流りりる

〇千八拾名入

△おめりし



たうきニ

おめりし

おめりし

目

法よとせき六引り横二万おくら八十五坪よ成
 あれよとせき二けんをうくられた成坪よるるなり
 又一坪り入ひようあが七拾二係入積りし
 みも、此卅坪り七十二ひようをうくら八十五坪よ
 二千百六十表よる成之、此を二ツりりやれり
 千の拾石ととせき



又一坪り六十二表入流りりして、此よ
 成坪とくら八千の百七十五係入るり

右のづれも、此りりりり又つ、此りりりりりり

ひようふよわてもちがひ、此りりりりりり



向まうし此事

米千八拾石を但二石で二斗めつづへりし時
右々殊目ありてちふれとて四斗あり

○ま寸目千四拾二石二斗ありとす

法よ一石と垂てけうちを三斗五合外を法よ
九斗古米め合をこれと千八十石よりうら

四斗儀五千二百七十俵の時これとあり俵あり

るしていろふれとてとす

○二千百四拾八石よなるとし

法よ五千二百七十表に四斗をうけし



又あるはありはより二千百四十石の時

四斗びようりてふれとてとす

二千百四拾八石を四斗にしてはより時よ五千二百

七十俵也とす

三斗二表儀八千二百四十俵也と四斗八表儀小

ありてはろふれとてとす

○四斗の米表 五千七百六拾俵よ候とし

法よ四斗の米を三斗五合にてはより一五と候

は一五とてはより四斗とわらとてとす

五千七百六十俵也とす



米うりくひれ事



米の百十石ある時 米拾五斗三升二合の

さうげよりして右の米のうりふれどどと同時

○米拾八升七百の拾目と

はよ八百拾石と右よをきてしりりさうげ

四斗三升二合と置て右よこめをお場てよれい

十八升七百の十目とまれど

こめと米お場てまれいさひりさう

かひりさうい米おまらへ



米五百拾七石五斗拾五升四斗三升二合の

さうげの時右の米よ米うりふれどどと同さ

○米拾五石五斗一升五合とす

はよ右の米よお場四斗三升二合とさうげし



米拾五斗四升の拾目とさうげの時米拾

廿三石七斗五升と右の米よ米何程かと同

○米五百六拾七石五斗

はよ右の拾五斗四升の拾目とさうげの時米

廿三石七斗五升にして右の米うりさうげ



米うりさういさひりさう

米うりさういさひりさう



上の米 一石_付 廿七石三分_付の_{お場}こ

中の米 一石_付 廿石五分_付替_此お_場うち

下の米 一石_付 廿三石七分_付か_人さ_うげ_はこ

もち米 一石_付 廿九石_付め_る替_のお_場

大豆 一石_付 十九石_付のさ_うだ_なか_り

油_或百十六石_付分_をけ_給少_て五_石ろ_くい_し時
五_ツ也_のま_す目_とあ_らじ_くと_るか_り

○上米 一石七斗三升_付四_斗四_升四_合四_勺

け代_給四_拾七_石三_斗三_升四_合四_勺

○中米 一石七斗三升_付四_斗四_升四_合四_勺

け代_給四_拾七_石三_斗三_升四_合四_勺

○下米 一石七斗三升_付四_斗四_升四_合四_勺

け代_給四_拾七_石三_斗三_升四_合四_勺

○もち米 一石七斗三升_付四_斗四_升四_合四_勺

け代_給四_拾七_石三_斗三_升四_合四_勺

○大豆 一石七斗三升_付四_斗四_升四_合四_勺

け代_給四_拾七_石三_斗三_升四_合四_勺

油_或百拾六石_付分_を

け_よ五_ツの_ろの_さう_だの_給合_百或_拾石_或あり_の
右_に或_百拾_六石_八分_を百_廿石_或に_てわ_らし_めし_よ

一石七斗三升四合四勺とりのりまじりて

又御う十六名八ふりハをうけても回事し



上此米 一石 廿七名三合六勺のお場ろり

中の米 一石 廿七名三合六勺替此きうげに

下の米 一石 廿七名三合六勺お場の

此米百拾六名ハ多きけ給はて上中下の米くい

上時の米より中の米とた一たふとり中よの

下をハ又一たふとりたき時上米の雑目さふ

○上米 一石二斗五升二合四勺五勺

け代給廿七名一合九勺二毛

○中米 二石ぬき合ぬ

け代給百拾三名ハ分七勺の毛

○下米 一石ぬき合ぬ

け代給百拾三名ハ分三勺の毛

はよ上米の代給も一石ぬきと廿七名三合と

中米の代給も二石ぬきと下米代給も

一石ぬきと分三口合而七拾三名ハ分

これにて右と此百拾六名ハ分をわるとまじり

上米一石二斗五升二合四勺五勺とまじり



せむらりうひの事

新六拾のあひうき時 せよき入又存十七あのお
お備うして右に流よせよるふやれどなとまふ時

○後三費の百七十三又四あといふ

はよ新六十ああふうを後のさうげは十七あにそ
まふ時は三人の百七十六又四合七リとらるを
これと百ふりうちをた目さひうひハおあしこ
七リといふとらるのつぎよて四とくけてり
四七廿八といふて七リのうちを一とらりて
次めて廿八リらり 又四分のほぎりいして

新六拾のあひうき時

四四の十六リかなり 又六又のつぎにりして
四六の廿四とらり 又七十又のほぎにりして
四七廿八といふてそ又の合のつぎにりして
三費の百七十三又四あといふ

○せよあまのお場て流とあめてり

百ふりうちを四とあけてり

せよ三人の百七十三又四あといふ時き入又存十七あのお
お場て右後の代流ハるふやれどなとまふ時
○新の流二あひうきりあもこ

法り 四費の百七十二又四あといふ時き入又存十七あのお
お場て右後の代流ハるふやれどなとまふ時

新六拾のあひうき時

百より内八目を引くは七十八のツキよして
四七二より八分を引くは四八八分と成り入に七
目を引くは四四の一分六リと成り入に七
九分六リと成り入に七を引くは十六ちんれ一十也
あつれし四費八百七十也又と毎に引くは四
十七也又引くは拾也又引くは七リ也と成り入に
上段より引くは十七也のさうげはかあり
中段一費又引くは十の果四分のね備也
引取百の積りもさう分ありある時 けりひらそ
せんと上中二つありひらけり右をひらそ



上段より中段もさう引くは七リたまひらけり時

○上段より七費り百五十也

け代引百廿三系四分のり

○中段より七費り百五十也

け代引百廿目九分あり

引二口合取百の積り四分あり

法より上段のさうげ十七也引く 中段のさうげ
十の果やうを加へり時より合廿二系四分あり
これより右より引取百五拾五也と成り入に七
七費八百四十也と成り入に七

た

此は
波法
波法
波法

以度
きり

うり

高
高
高

うり
うり
うり

才十五

浪友かへの手



浪友め板九百廿五寸 丁浪よりくわきり

うり三分訂て右きまめ板小丁浪何れど

○丁浪より波あつ分ふらりと

はよ拾系と五け内三分引ハ抄で

これと右きのみろ廿めよりうり



三分引うちハ九七をくく

うりせとく一丁三てわりの



三分まきとく一丁三をく

内ハ九七であらと

歴次七百九拾二系を 丁部内二わりまゝに
し七系を歴次よ丁部何れにまゝの時

○丁部九百九拾目よぬとりあ

はよたふあき七百九拾二系を八よてわら時よ

丁部九百九拾目よとあか

丁部五百六拾九系五時よ歴次内二わり引よ

あそりうらとまきよたふあき何れにまゝの時

○歴次四百五拾九系二つと

法よアんまこれ五百六拾九系一ハをうられん

歴次四百五拾九系二つとあか

二わり引うちを八よてうらとあかん

ろやハ十二てまらとあかん

二りのまらと十二をうけてま

内を八よてわらとあかん

又あかひ丁部五百六拾九系とうら二わりの五分

引といふとまきりたんとあかん

○四百七拾九系七つわり

はよ拾系とたよをきてけ内を二系めふ引ん

あて七系めふよらこのれを五百六拾九系一

まら四百七拾九系七つわりとあかん

其改 吉田光甫
あかひ

お堀の金



金あか人此事



金廿の末の時 判金のさうだ堀五百或終り

あかすく右の金より堀をふれくがと同時

○堀三百目あり

序のほよハ判金まぬのありあ四拾四系あり
お堀五百廿の系を中拾四系までやり金系存
拾二系つよろるこれと右の金廿の系よころれ
堀三百目よりころるあり

堀初は成人ハめけし重しこれらあといよあり
あかぬきん角之るれまうしころるあり



金七系四分よりを判金のお堀五百目替の時
の百目と四拾四で刻時金系存堀十系三分
六リ三毛六系三忽つよあころころりよ右
金七系四分よりところり

○堀の拾四系より九毛九系五忽よ成之
めけよてまへてあかすくあききんあり

右上げ 金七系四分より判のお堀五百目
あかすく右の金より堀をふれくがと同時

○堀の拾四系あり

は金七系四分よりさうだ五百目ところり



けよ二両三分三朱と重定三朱を四にして五兩の
 二両三分七五となり○又三兩りう下へ四にして
 五兩の二両九三七五と成あはれよ小判のきりだ
 五十六兩をうりぬ銀百六十四兩ぬふとさるる

右とてくをきてせにてもあつひの米ても
 ことゑん一両存るふれく福をさだめてふれ
 お場の福くえからぬきれじくすくくく
 付やしよふなほ

第十九

利そく此事

一年の利より利をわけて十二つきりうふ
 ねいようろだといふとまきり

○き人目符

- 一 一両百或拾六兩二分五厘よ成
 - 二 一両百六拾六兩二分四厘よ成
 - 三 一両百廿六兩七分六厘よ成
 - 四 一両百廿六兩二分二厘よ成
 - 五 一両百九拾六兩二分六厘よ成
- 是より五兩りといふときハ右より一両目と

ひより一貫五十目と書十二とくけし
 一貫目をとまんへ五わりより十年此
 わりてなふなりようふだごとふ時り

○令五拾七貫の百六拾の百四りよぬら
 法よまふ目と右よなきひより一貫五百目と
 垂て十交くれ右のり子とちるべし

本報七拾六貫の百目り一時一ヶ月りの分の
 加一とつふこけ八分とつふを月り百目
 八分つこのまこと右の本報の利分六ヶ月に
 ろふなりと同時り

○利報三貫六百八拾の百四分のり

法よ七拾六人の百目よ八分とつれい百十四
 四ととれいこれい一月せんかこれり

六ヶ月とつれい三入の百り拾六の百ととれ
 右の七拾六貫の百目よ六ヶ月の万の利り
 利をくくして八何なりとととる時

○利三貫七百六拾目九分二りよぬら
 法よ百目八分とつれよ垂を七拾六貫八百目よ
 六とつれいなりせしとれしを本報りハ
 法よ三貫七百六十目よ二りよぬら

尺

きぬうりうひの事



きぬめん八尺五寸をきぬの事

うきよ一尺二寸をきぬで一尺とす



きぬめん一尺二寸代給の事

きぬ一尺八寸をきぬで一尺とす

○二かツくはあつるとす

きぬ五尺をきぬにきぬをきぬに四二五とす

又五尺小四をきぬけても二かと成る



きぬめん八尺五寸をきぬに

きぬ二尺五寸をきぬに

○きぬ七尺五寸とす

きぬの尺五寸をきぬをきぬに四二五とす

きぬを二尺五寸できぬにきぬ七尺とす

又四二五より四をきぬに一尺七寸とす



きぬ五尺をきぬにきぬ一尺二寸

きぬを二尺五寸をきぬにきぬ一尺二寸

きぬをきぬとす

○一尺五寸をきぬとす

きぬ五尺をきぬにきぬ五尺にて刻時六四と成

あはれ七二五とす

一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は

又六四を四分してわりて一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は

〇一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は

〇一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は
 一丈の尺六寸六分六厘は

表二

一巻の代紙をわりて

意あひれくひ地の事

らんぞん 或百五拾介

らんぞう 七拾介

まきまの 或百拾 さまき

いこ 八千四百まん

右四色とのとしちよ泥百六拾目よりひし

これと三人お答にてくいし介り但右らんぞう

一人の泥ハ 六拾四費の百目いごす

一人の泥ハ 五拾二費の百目と

一人の泥し 四拾二費の百目と

○泥六拾四人の百目のらんよ

一らんぞん 百一まん十あ

一らんぞん 七十八斤十四あ

一まきまの 百拾三卷一丈の尺二寸

一糸 三千四百二介

○泥の拾二費の百目此分よ

一人多 八十一斤廿八あ三あ

一沈香 廿二斤一廿五あ三あ

一卷物 九拾一卷一丈九尺九寸五分

糸 二千七百四十五斤百或拾目

○紙四拾二共

一人志ん 六拾七行一每まふ

一ぢん勢 十八行一每まふ

一まき抽 七拾五まき二尺八寸五ゆ

一とと 二千或百五拾二行一拾め

法一一人志んぢん勢百五十まふんまふふをまて

一人のりこ子六拾の人の首目をひまふり

まふりこれまみまふりの二百ま十行りうまれハ

一六二とから是と三人の女紙のぢ百六拾目

して一六二とまはれの人ぢん百一十二五と成

二五といふりまれぬとまき一十此部

百六拾目ありこれま二五りりりうまれハ

百一十四拾目とちり又一とといふハ

四拾目を四系りてまはれ百一十とちり

これ一人おのぢんぢんやまらる

○又あつ二人あんのぢんぢんも右のわらうと

同あめてまれとちり

○又沈香のわりもいとをわらも人多のわら

同あつりてまらる

○又まき抽

紙四拾二共
ぢん勢
まき抽

六拾の人の言ひ

かゝれハ一八一四

百六拾月で一八一四四を割ハ百十三卷

かゝりのけ四より一まき此かゝる三丈の八を

くゝれん百十三まき一丈の八守とがのりか

あて二人のわりもけはあ

あひれうんぢんのま

舟一たうよ米改百五拾石つとていつづうん入

はくあ時うんぢん百石舟七石つ改百の拾石の

内よそとあ時よ改ぢん米うふりく四時

第六

○拾石を三斗の中合とて四斗の

法より改うの拾石と右よあきて七石とくれ

一七立りりり又右よ百七石とかきてこれあて

右の一七五とくれ拾六石三斗の米めあま

四丈とちりべし

又年米りりりハうふとてうりやと

改百廿石の中あて合つて又改百が

法よ改百五拾石と右よをまきこれと百七石よ

改百の米二百の改百

くちりべし



寛永四年の序をもつ此五巻本
塵劫記は

巻之第一(完)
巻之第二(最後の三頁欠)

昭和十二年九月

小倉金之助



